

住

名古屋畳商工業協同組合

ライフスタイルの変化に合わせて 進化する畳

畳のある暮らし

日本の住まいには、畳敷きの部屋が当たり前の風景でした。しかし最近は畳がない住宅も珍しくなくなっています。

組合が設立されたのは昭和23年(1948)、戦災からの復興期にあって、住宅の供給は急務でした。こうした中で、畳職は製造から販売、住宅への設置までを行いました。小規模事業者が多く、お互いが助け合い、協力して仕事を進めることが必要でした。そこで組合を組織し、資材の共同購入や健康保険などの業務を円滑に行えるようにしました。

昭和30年代には、名古屋市内の畳屋は150軒くらいでしたが、現在は40軒ほどに減っています。生活様式の変化で畳の需要が減ったことや後継者不足が大きな要因です。

名古屋城本丸御殿復元で1000枚の畳

木造から鉄筋コンクリート、戸建てから集合住宅への比率が高まるにつれ、座卓からテーブル、畳か



本丸御殿の表書院へ納められた畳



訓練会の風景

らソファへとライフスタイルも変化していきました。また、昭和34年(1959)の伊勢湾台風後の復興で畳職人が不足したころ、畳専用マシンが現れ、畳の仕事も機械化が進みました。畳の世界では今も尺貫法が用いられています。20年ほど前からコンピュータ制御の裁断機が普及してきましたが、機械の操作は、尺貫法の数字を打ち込んで操作します。

畳の素材も変化しています。藁を圧縮してつくる畳床には、丈夫で軽い合成樹脂製も使われています。最近では畳表も和紙や樹脂製のものが現れ、これらは、い草よりも丈夫で長持ちしたり、水に濡れても大丈夫であるため浴室で用いられるなど新しい用途への広がりを見せています。

こうした変化の中で昔ながらの技能を伝承していくため、組合では平成30年(2018)から年に4~5回の割合で技能講習を開いています。名古屋城本丸御殿復元では、組合を挙げて伝統技法による畳を1,000枚納めました。

■職種：畳職 ■組合設立年：昭和23年 ■組合住所：名古屋市中区大須3-10-35 MltinaBox3階

■電話番号：052-746-9860 ■ファックス：052-934-7007 ■ホームページ：<http://www.aiweb.or.jp/tatami/>